I-34

内と外における曖昧な空間区分に関する研究
－日本社寺建築を対象として－
Research on ambiguous space division in the inside and outside
-As for Japanese shrines and temples architecture-

○外山浩太[1]，　落合正行[2]　山中新太郎[3]
Hiroto Sotoyama[1], Masayuki Ochiai[2], Shintaro Yamanaka[3]

１．序論

1-1. 研究背景及び目的

建築がつくられる時，内と外という概念は常に考えられてきた．しかし，その概念は曖昧なもので，どこに境界線をおくのかは人によって異なっている．このことから，内や外には境界線がいくつも存在しているのではないかと考えた．その中でも社寺建築では人による意識の上での内外の別が顕著に表れている．本研究では，日本社寺建築の空間区分を決定する境界線を分析・考察することを目的とする．

1-2. 用語の定義

1-2-1. 機能別空間区分と構造別空間区分

本研究では，内陣と外陣を内と外の指標に用いる．内陣と外陣について井上充夫氏(1)は，書籍『日本建築の空間』の中で，機能によって分ける方法と構造によって分ける方法があると述べている．機能によって分けるものを以後機能別空間区分，構造によって分けるものを構造別空間区分と呼ぶこととする．

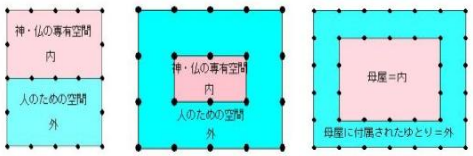

Fig1. 機能別空間区分(左，中央)と構造別空間区分(右)

1-2-2. 「内」、「外」および「中間領域」

機能別空間区分と構造別空間区分の 2 つを重ねあわせて、どちらでも内となる空間を「内」、どちらでも外となる空間を「外」、いずれかの区分では内でもう一方の区分では外になる空間を「中間領域」と定義する．

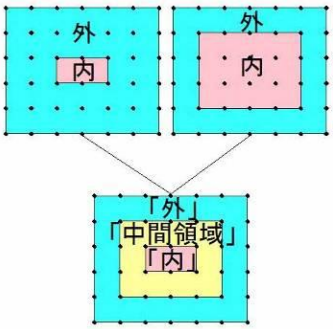

Fig2. 「内」と「外」及び「中間領域」

1-2-3. 複合化空間区分および細分化空間区分

「内」，「外」，「中間領域」を構成するための空間区分の方法を複合化空間区分，その空間をさらに細かくするために境界線を複数描く方法を細分化空間区分と呼ぶ．

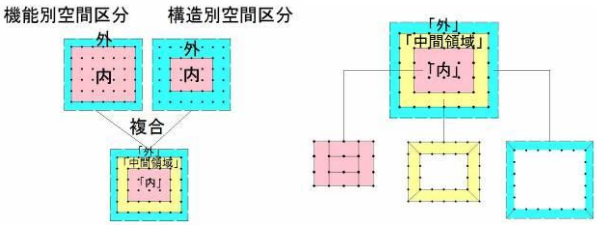

Fig3. 複合化空間区分(左)と細分化空間区分(右)

1-3. 研究対象

Tab1. 研究対象の神社建築と行った区分方法

研究対象の神社建築						
名称	所在地	形式名称	行った空間区分方法			
			機能別空間区分	構造別空間区分	複合化空間区分	細分化空間区分
伊勢神宮外宮正殿	三重県伊勢市	神明造	○	○	○	×
出雲大社本殿	島根県出雲市	大社造	○	○	○	×
住吉大社本殿	大阪府大阪市	住吉造	○	○	○	×
春日大社本殿	奈良県奈良市	春日造	○	○	○	×
賀茂別雷神社本殿	京都府京都市	流造	○	○	○	×
日吉大社東本宮本殿	大分県宇佐市	日吉造	○	○	○	○
宇佐神宮本殿	滋賀県大津市	八幡造	○	○	○	×
八坂神社本殿	京都府京都市	祇園造	○	○	○	×
大崎八幡神社社殿	岡山県岡山市	八棟造	○	○	○	×
吉備津神社社殿	宮城県仙台市	比翼入母屋造	○	○	○	×

Tab2. 研究対象の寺院建築と行った空間区分

研究対象寺院建築一覧						
名称	所在地	形式名称	行った空間区分方法			
			機能別空間区分	構造別空間区分	複合化空間区分	細分化空間区分
法隆寺金堂	奈良県生駒郡	飛鳥様式	○	○	○	×
唐招提寺金堂	奈良県奈良市	和様	○	○	○	×
延暦寺根本中堂	滋賀県大津市	密教様式	○	○	○	○
平等院鳳凰堂	京都府宇治市	浄土教様式	○	○	○	×
石山寺本堂	滋賀県大津市	浄土教様式	○	○	○	×
浄土寺浄土堂	兵庫県小野市	大仏様(天竺様)	○	○	○	×
円覚寺舎利殿	神奈川県鎌倉市	禅宗様(唐様)	○	○	○	×
蓮華王院本堂	京都府京都市	新和様	○	○	○	×
大報恩寺本堂	京都府京都市	新和様	○	○	○	×
明王院本堂	広島県福山市	折衷様	○	○	○	×

２．日本社寺建築の特質

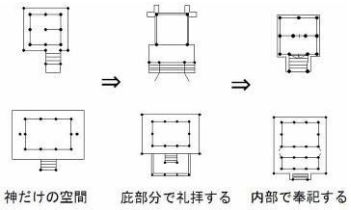

Fig4. 神社における人と神の距離(2)

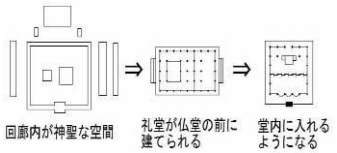

Fig5. 寺院における人と仏の距離(3)

1：日大理工・学部・建築　　2：日大理工・研究員・建築　　3：日大理工・教員・建築

３．「内」,「外」及び「中間領域」の分析

3-1. 分析

まず機能別空間区分と構造別空間区分，複合化空間区分を行う．

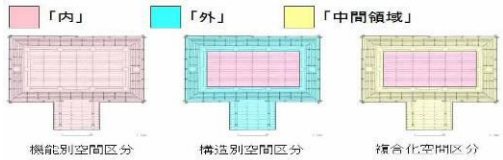

Fig6. 空間区分の例 1(伊勢神宮外宮正殿)

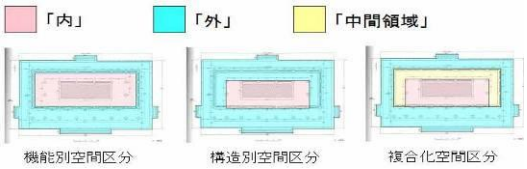

Fig7. 空間区分の例 2(唐招提寺金堂)

3-2. 分析結果

分析を行った結果,「内」は機能上においても人が入ることができない空間であり，構造上においても最も重要な母屋の部分にあたるので，神聖な領域としての力が強い空間と言える.「外」は人が参入できることを想定した空間であり、構造上も母屋の周りに付属したゆとりのある空間であるから，神聖な領域としての力が低いと言える.「中間領域」はその間である.

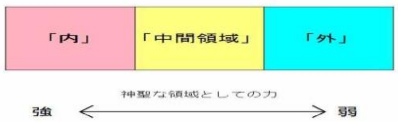

Fig8. 神聖な領域としての力の強弱

４．空間体験による分析

4-1. 対象の抽出

3 から，空間の神聖な領域としての力には強弱があると推測し，それに伴って，その空間を分ける境界線にも強弱があると考えた．それは,「内」や「外」,「中間領域」を分ける部分の境界の強弱ではなく，もっと細かい境界線が存在していると仮定すると，その境界線の数と強弱が関係しているのではないかと考えることができる．複合化空間区分によって生まれた結果から,「内」,「外」,「中間領域」が存在し，平面・断面及び実際に空間体験を行ったとされる映像や書籍が存在する日吉大社東本宮本殿と延暦寺根本中堂について細分化空間区分を行う.

4-2. 分析

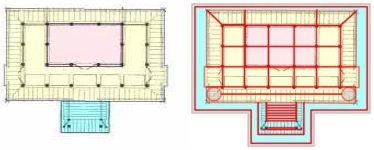

Fig9. 日吉大社東本宮の複合化空間区分(左)と細分化空間区分(右)

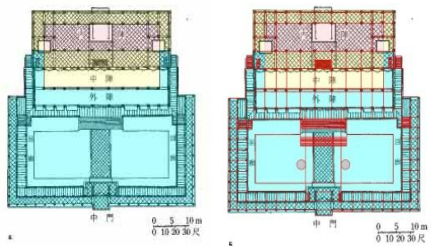

Fig10. 延暦寺根本中堂の複合化空間区分(左)と細分化空間区分(右)

実際に自分でも空間体験をし，映像や書籍からも自分以外の人物が感じた境界線を描くことで細分化空間区分を行うと Fig10，11 のようになった.

4-3. 分析結果

X 軸を境界線の数，Y 軸を境界線の強弱とすると Fig11 のような図ができ，反比例の関係にあることがわかった.

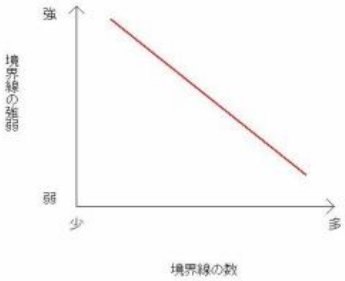

Fig11. 境界線の数と強弱の関係

５．結論

1) 神聖な領域としての力には強弱がある

2) 境界線は複数存在し，内と外を細かく区分している

3) 神聖な領域としての力が弱い空間に境界線の数が多い

4) 境界線の数と境界線の強弱には反比例の関係がある

5) 境界線の数が多いと 1 つ 1 つの境界力は弱く曖昧である

今後は実際に空間体験をして調査をしたもの以外の建築についても調査をしていくことが必要であると考える.

６．参考文献

[1]　芦原義信『街並みの美学』株式会社岩波書店(2001/4/16)
[2]　井上充夫『日本建築の空間』鹿島出版社(1969/6/10 第 1 刷、2010/2/20 第 23 刷)
[3]　河津優司『よくわかる古建築の見方』JTB 出版(1998)
[4]　三浦正幸『神社の本殿　建築にみる神の空間』株式会社吉川弘文館(2013/2/1)
[5]　前久夫『寺社建築の歴史図典』株式会社東京美術(2002/3/15)
[6]　日本建築学会『日本建築史図集　新訂第 2 版』株式会社彰国社(2007/2/20)
[7]　五木寛之『百時巡礼　第四巻滋賀・東海』株式会社懇談者(2004/3/31)
[8]　太田伯太郎『日本建築史序説　増補第 2 版』株式会社彰国社(2002/4/10)

(1)　井上充夫『日本建築の空間』鹿島出版会(1969/6/10) p 180
(2)　河津優司『よくわかる古建築の見方』JTB 出版(1998/2) p 64
(3)　河津優司『よくわかる古建築の見方』JTB 出版(1998/2) p 6